

のほら けいこ
野原 恵子 議員

町長

高齢者に優しい街づくりを

日本は世界一の長寿国であり、2003年には日本人の平均寿命が82歳にまで延び、2012年には4人に1人が65歳以上の高齢者となるのは確実といわれている。

「元気にままで年を重ねたい」と誰もが望んでいるが体力の衰えに不安をかかえながら暮らしている。

各地域の状況分析を見据え、高齢者が健康で安心して暮らせる街づくりを進めていくことが急がれる。

①将来の高齢化率の予測は。

・本町地域・札内地域・忠類地域

②歩道のバリアフリー化に向けた計画は。

③医療機関・公共施設・金融機関・買い物などの

交通手段の手立てをどのように講じていくか。

④高齢者を支えるネットワーク作りを。

⑤高齢者に配慮した若年層に対する交通マナーの啓発を。

⑥高齢化社会を見据えた総合的な街づくりを。

①将来の高齢化率の予測について

	高齢化率 (3月末現在)	将来予測 (過去4年平均)
幕別地域	32.08%	1.07ポイント 上昇
札内地域	20.17%	0.61ポイント 上昇
忠類地域	30.76%	0.64ポイント 上昇

②バリアフリー新法により、本町は、幅員2メートル以上の歩道を有する街路等の歩道勾配の緩和や縁石の段差解消などの整備を行っているほか、過去に整備を行った基準に適合しない交差点部分の改修を進めていて、優先順位も考えながら、今後も計画的に整備を行っていききたい。

③介護保険補完事業として通院、買い物等の送迎を実施している。この事業は介護保険の補完事業

としての位置づけであり、一般高齢者に対する施策ではないことから、早急の対応策の検討が必要であると認識しており、今後、コミニティバスやデマンドタイプバスの研究も含めて、先進自治体の例を参考に検討したい。

④社会保障の充実や、高齢者の人が安心・安全で生活できるための社会資本の整備、さらには、高齢者みずから生きがいを持つて生活できるような体制づくりが必要であり、高齢者の皆さんが、地域住民が求めるものと思っている。

今後、地域福祉計画の中で一体的に進められれば、なお効率が上がり、高齢者みずから参加できる体制をつくり、行政として担うべき役割を果たしていきたい。



⑤町は、警察並びに町民の方の協力をへて、これまでも、幾つかの高齢者に配慮した交通安全啓発事業に取り組んできたが、今後も高齢者自身の意識の向上、若い人も含めて一般の方の高齢者に対する配慮などの啓発に努めたい。

⑥介護保険制度、介護保険補完事業、高齢者医療制度、高齢者保健予防及び健康増進事業等、それぞれの事業を一貫した体系のもとと充実させることが必要であり、その実現に向けて取り組んでいきたい。

また、社会資本の整備の面においても、高齢者や障害を持つ人たちに優しいまちづくりの視点がより一層求められているので、そうした視点を行政運営の理念の一つに備え、取り組んでいきたい。



※標語は平成21年、「年間交通安全スローガン」こども部門より